

2024 年度 春学期
教員アンケート集計結果

流通経済大学
FD・SD 委員会

目次

1. 回答者数と回収率.....	3
2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか	5
3. 学生の集中や理解を促す取り組み.....	10
4. 前回のアンケートで提示した改善策の実施状況	11
5. 今後の改善計画	13
6. 特別な配慮が必要な学生への対応	15

1. 回答者数と回収率

・2024 年度春学期の教員アンケートの回答者数は 109 名であった。2023 年度春学期に回答者数が著しく減ったので、100 名を超える回答を得るのを当面の目標としていたが、それは達成された(表 1)。

表 1 年度・学期別の回答者数

	春学期	秋学期
2019 年度	142 名	127 名
2020 年度	149 名	107 名
2021 年度	144 名	115 名
2022 年度	128 名	88 名
2023 年度	98 名	94 名
2024 年度	109 名	-

・2024 年度春学期の教員アンケートの回収率は、33.5%（対象者 325 名のうち 109 名）であった。専任教員のみに限ると、アンケート回収率は 52.6%（対象者 152 名のうち 80 名）であり、前年度同学期の 42.2%よりも 10.4 ポイント高くなった。他方で、非常勤講師のアンケート回収率は 16.8%（対象者 173 名のうち 29 名）であり、前年度同学期の 17.7%よりも 0.9 ポイント低くなった（表 2）。

表 2 区分別の回答者数と回収率

区分	回答者	対象者に占める 回答者の割合
専任教員	80 名	52.6%
非常勤講師	29 名	16.8%
全体	109 名	33.5%

・専任教員のアンケート回収率には、学部間で大きな差がある。最も高いのは共創社会学部の 69.2%であり、それに次ぐのが法学部の 60.7%であった。他の 3 つの学部は回収率が 50%を下回った（表 3）。

・前年度同学期と比べて、共創社会学部と法学部では、専任教員のアンケート回収率が大きく上昇した。それぞれ 14.8 ポイントと 21.4 ポイントの改善であった。他の 3 つの学部でも、3.0～6.2 ポイントの回収率の上昇が見られた。教員アンケートの締切の直前に、E メールで各分科会の委員から同僚の教員に呼びかけてもらったのが効いたのかもしれない。

表 3 学部別の回答者数・回収率（専任教員）

	2023 年度春学期	2024 年度春学期	変化
経済学部	43.2%	46.2%	↑
共創社会学部	44.4%	69.2%	↑
流通情報学部	43.5%	47.6%	↑
法学部	39.3%	60.7%	↑
スポーツ健康科学部	38.5%	44.7%	↑

2. 授業アンケート(学生アンケート)が自身の取り組みの振り返りに役立っているか

・「授業アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか」という質問に対して、109名の回答者のうち70名(64.2%)が、「とても役立っている」・「概ね役立っている」と回答した(表4)。

表 4 振り返りに役立っているか

	回答者数	割合
とても役立っている	14 名	12.8%
概ね役立っている	56 名	51.4%
どちらとも言えない	28 名	25.7%
あまり役立っていない	9 名	8.3%
まったく役立っていない	2 名	1.8%

・「とても役立っている」・「概ね役立っている」と答えた者の割合は、前年度同学期と比べて

11.3 ポイントも減った。授業アンケートに関して肯定的な評価をする者の割合が大きく減ったのは、回答者数の増加とともに「どちらとも言えない」を選ぶ者が増えたことによる。

・「とても役立っている」・「概ね役立っている」と答えた者の割合は、2020 年度から 2022 年度までの新型コロナウイルス感染症が流行した期間と比べると、14.3～18.3 ポイントほど低い。この期間においては、オンライン授業であった科目が多く、教員が学生の状況を把握しづらかった。授業アンケートは、教員が学生の意見や感想を知るための重要な情報源であり、教員による評価が高かったのである。しかし、現在は、ほとんどの科目の授業が対面で行われ、教員が他の手段で学生とコミュニケーションをとる機会も増えた。授業アンケートが「とても役立っている」・「概ね役立っている」と答えた者の割合が減ったのは、その必要性や重要性が変わったからなのかもしれない。実際、教員アンケートの自由記述の質問において、独自のアンケートを実施しており、そちらの方が役に立っているとの回答が見られた（表5）。

表5 「とても役立っている」または「概ね役立っている」と答えた者の割合

	春学期	秋学期
2019 年度	71.8%	70.1%
2020 年度	82.5%	80.4%
2021 年度	78.5%	81.7%
2022 年度	81.3%	73.8%
2023 年度	75.5%	72.3%
2024 年度	64.2%	-

(1) 教員アンケートに対する肯定的な意見

- ・レーダーチャートで結果を視覚的に確認できるので分かりやすい。
- ・難易度や理解しやすさを確認するうえで、大変参考になる。今後の授業改善につながる。
- ・授業アンケート以外では、匿名で学生の意見や要望を聞ける機会がない。
- ・自分では気づきにくいことを知る機会である。
- ・自由記述で学生のニーズを知ることができる。時々鋭い意見を述べてくれる学生がいる。
- ・学生による評価と自己による評価のギャップを確認して埋めることができる。
- ・毎回授業終了時に授業の振り返りアンケートを実施しているが、それは個々の回の目標の達成度を確認するものである。全学実施の授業アンケートは全回をつうじた振りかえりとなり、趣旨が異なるので必要だと思っている。
- ・講義科目がオンデマンド科目となっているため、講義期間中は、講義に対する学生の反応が分かりません。そのため、学生アンケートが授業の振り返りに役立っています。
- ・授業の進度に関して、早すぎるのか遅すぎるのか、判断する材料になる。
- ・国籍・学年・理解力などが異なる、多様な受講者の全員が満足できるような授業を考える上で参考になる。
- ・今年度から留学生が増えたので、彼らが十分に理解できているかが気になっており、参考にした。
- ・I learn about my students' thoughts and opinions on my classes and strive to encourage them by improving my teaching.

(2) 教員アンケートに対する否定的な意見

- ・授業中に回答の時間を取ったにも関わらず、相変わらず回答率が低かったのが残念です。
- ・回答者が少ないので、同じ科目群の平均と比べて良い評価であっても悪い評価であっても信頼できない。授業アンケートは学生の意見や要望を集約できていないと感じる。
- ・何とか回収率を上げようとしているが、オンライン科目ということもあり、学生への呼びかけには限界がある。
- ・すべての質問で選択肢「3」を選んでいるなど、学生が真面目に回答しているかどうか疑わしい場合がある。
- ・誹謗中傷の域にさしかかるものもあり、心理的に厳しさを覚えることがある。
- ・設問が抽象的なので、学生の回答の意図が正確にわからない。
- ・定性的な回答(自由記述)を求める質問が少ないので、学生の本音を引き出せていないのではないかと感じる。
- ・留学生は、記述式の質問に回答してくれない傾向がある。
- ・独自に取っているアンケート(理解度や進め方に関するもの)を重視している。そちらの方が、聞きたい項目について聞けるし、きちんと出席している学生とそうでない学生の意見を区別できる。
- ・授業の各回で受講生に自由記述でコメントをもらって、それらを踏まえて授業の修正をした。授業アンケートで15回分まとめたコメントを見るよりも、各回に得たコメントにもとづいて軌道修正するほうが受講している学生に寄り添うことができる。
- ・GPS-academic テスト等も含め、大学が実施するアンケートが多すぎる。学生たちが食傷気味であるように思われる。

(3) 教員アンケートの改善提案

- ・自由記述で学生から厳しいという意見がありました。しかし、それだけではどのように改善したらよいか分かりません。具体的に述べるように、注意書きを入れてください。
- ・授業への自分の取り組みについて学生がどのように認識しているかを聞く質問を追加してほしい。例えば、「どのくらい意欲的に授業に参加しましたか」「授業にどのくらい出席しましたか」など。
- ・自由記述の回答を manaba の結果表示で見られるようにするか、PDF ファイルに含めていただけると助かります。
- ・定期試験の開始前など決まった時間に統一して行えば、回答率が向上するのではないか。
- ・回答するとジュースがもらえる等、なんらかのインセンティブがあってもよい。
- ・ほとんど出席していない学生の回答はまったく役立たない。授業の 3 分の 2 以上出席することを、単位を認定する(定期試験を受験する)条件としているのであれば、その条件を満たさない学生には授業アンケートの回答ができないような設定にしていきたい。
- ・目的関数を「授業の満足度」とし、それに影響する説明変数「わかりやすさ」「ためになる」「動画の使用」などとの因果関係(相関係数など)を明らかにするような分析をお願いしたい。

3. 学生の集中や理解を促す取り組み

- ・授業中はスマートフォンの画面を下にして、空いている座席の机の上に置くよう指示している。
- ・講義科目において、空欄補充型のレジュメを作成し、講義中に学生に空欄を補充させるようにしている。このことによって、授業中の学生の集中力を維持できている。
- ・メモを取らない学生が多いため、プリントを配布し、その紙にメモをとりながら授業を受けるように指導した。将来、ビジネスシーンで必要になることなど(議事録作成やメール文書作成など)を説明して、自分の頭で整理してメモを取ることの重要性を何度も示した。
- ・授業中にかんたんなアンケートを行っている。「はい」「いいえ」の2択のアンケートで、学生が何かしらの形で参加するようにしている。
- ・基本的には双方向(対話式)の授業のスタイルで、学生に問いかけ答えてもらうことで、集中が切れないように努めています。それでも、自分があたらないときは突っ伏して寝ている学生が散見されます。効果は自分が期待する水準には達していません。
- ・大教室授業では、学生の集中が切れそうなときに、何か作業してもらうことが有効です。
- ・様々な活動(小テスト、講義、ディスカッション、課題提出)を組み合わせ、かつそれらを短時間にして、授業を構成した。
- ・毎回の構成をパターン化して(宿題や課題小テストの manaba への入力提出、フィードバックと解説、本日の学習と復習、ペアあるいはグループ活動等)、受講生が予習・復習しやすく、安心して受講できるようにした。学生同士で問題解決する時間を設けて集中力と理解度の向上を目指した。これらの取り組みは受講生から概ね良い評価を得た。
- ・15 回分を一つにまとめた出席カード(大福帳)を作成・配布し、授業中の適当なタイミングで授業内問題を出し、カードに記入させた。また、出席カードには、問題解答欄とともに自由記述欄も設けた。毎回コメントや感想などを自由記述欄にびっしり書いてくれる学生もいたが、それは一握りの学生だった。他の大多数の学生が出席カードの取り組みについてどう思っていたかは不明。なお、出席カードの配布は、不正出席の防止や、100 人以上の履修者がいたため、授業中に私語などをしている学生を注意する際、その学生が誰かを特定することにも役立った。
- ・講義科目では、写真や映像をできるだけ使って、視覚的に記憶に残るようにうながしました。また、最新のニュース映像や過去の新聞記事を閲覧してコメントを書く機会を設けて、ニュース報道も大事な文献史料であることを示しました。
- ・学生に身近なことや最近の話題を例に挙げて話すようにしています。

・授業終了時に授業内容に関する各自の意見や考えを 300 字程度で回答・提出する機会を設けた。「知識の習得」だけでなく、「書くこと」、「考え・まとめること」の技術が次第に向上した学生が増えた。

・毎回、コメントを GoogleForm で必ず取り、次回の授業の冒頭にフィードバックを行った。このフィードバックの時間が前回の復習となり、内容の定着にある程度の効果があった。

・ゼミでは 3 人組や 4 人組の小グループでの話し合いの機会を多く設けるようにしています。小グループの中では意見交換が活発に行われており、積極的に取り組んでいます。学生の感想などを見ると、概ね良い評価を得ていると思われます。

・グループワークを多く取り入れて、スマホで遊んだり、寝てしまったりする時間を極力与えないようにした。楽しく学べたという意見をもらえた。

・担当しているどの授業でも、ディスカッションやグループワークを頻繁に行っている。

・毎回、授業後に小テストを行い、自由記述の感想を提示してもらう。質問や間違っ理解していた点を翌週の授業でとりあげて、さらなる理解を促している。学生は概ねこちらの設定している理解のレベルに近づいている。

・私の担当する講義科目の履修者には留学生が多いので、予習用の動画コンテンツに Panopto を使い、文字おこし、自動翻訳機能等を活用した反転授業を実施した。これまでよりも、学生が課題の実施や授業への参加に積極的であった。

・Assigning student seats and incorporating Japanese explanations in my lessons play a crucial role in ensuring the smooth progress of the lesson and enhancing understanding.

4. 前回のアンケートで提示した改善策の実施状況

・前回は改善点を、「語学科目で少しアクティブな授業を」としました。ペアワーク/グループワークを増やして、授業のメリハリもでき、学生から「楽しい」という意見が聞かれました。

・グループワークで、隣りの席の人と意見交換するのは難しいようだったので、C-Learning のアンケートを使って、意見交換する場を設けるようにした。匿名で意見を入力できたので、自由に意見を述べられたと思う。

・語学の授業であっても、「思考」を促す部分が必要だと感じている。SDGs に関するテキストを

用いて、社会問題について考える機会を与えた。また、学生の意見をシェアすることで、「思考」を促す授業を実践することがある程度できたと思う。

- ・救急実習の授業で、評価基準を明確にし、補助学習用動画で実技の内容をくり返し見ることができるようになっている。授業で3回ほどアンケートをとったが、効果があったと判断する。

- ・小テストでの最低点をクリアした学生のみを出席扱いにしたため、授業への集中度が高まった。

- ・成績に直接影響する小テストのほかに、関心が高い学生のために別途課題を提示し、回答してもらいました。毎週メールでやり取りしました。

- ・授業内容のスリム化がここ数年の課題であった。思い切ってレジュメの内容を2割ほど削減してみたところ、ゆとりを持って授業を展開することができた。これまで話すことのできなかった周辺的な説明も可能になった。学生からの評価も高かった。

- ・新しい授業の方法として反転授業を取り入れてみたが、当該科目への学生の意欲の差や学年のバランス(比較的4年生が多く、グループディスカッションの際に就活などで欠席者が複数あった)などによってうまくいかなかった。今後は、全体的な授業の構成を考え直し、授業を進めたい。

- ・小テストの問題の難易度を下げ、範囲を狭めておこないましたが、基礎力に乏しい受講生が予想以上に多く、期待したほどの成果が得られませんでした。

- ・学生が飽きずに課題を持って取り組めるように、二部構成の90分授業を行うようにした。概ね反応は良い。

- ・グループワークを元々取り入れていたのだが、今学期はさらに多く取り入れ、種類を増やした。ゲーム形式にして得点を競うものは学生たちの反応がよかった。

- ・学生からのコメントシートに、私もなるべくコメントを書いて返すようにしている。毎週やり取りができるタイプの手書きのコメントシートなので、中にはやりとりを楽しんで、たくさん質問やコメントを書いてくれた学生もいた。

- ・講義はオンデマンドで行い、学生と対面する授業では知識の確認、グループワーク、発表、社会人講師の講演などを実施した。対面授業でこれらの活動を全部行うのは不可能で、たぶん講義だけで時間を使い尽くしてしまったと思う。

- ・前年度の教員アンケートでは、プロジェクト学習について記入しました。学生のレベルの違いから生じるグループ調査の困難さが課題でした。今年度は、授業の前半で、クラス全体でフィ

ールドワークのルートを検討してから、現地に赴きました。そうすることで学生同士の仲が深まり、調査において互いにフォローしあうような関係が築かれていました。また、他の人と同じエリアを調査する場合も、各人がそれぞれの視点から発表する形をとったので、他の人に依存せず各自が頑張らなければならない環境をつくることができました。

- ・ I focused on fostering students' autonomy and implementing cooperative and collaborative classroom activities, which worked well.

5. 今後の改善計画

- ・座って聞いているだけの授業ではだめだということがよく分かった。なるべく学生を参加させ、実践させるタイプのアクティブな授業をしていきたい。自分の能力がグループの役に立ったり、グループで一緒に相談すると良いアイデアがわいたりする。学生が「自分が貢献できた」という気持ちを持てるのが大切なポイントだと思う。グループワークの種類をどんどん増やし、飽きさせない授業づくりをしていきたい。

- ・グループワークに消極的なメンバーが取り組みやすい環境づくりやファシリテーションを心がけようと思う。ディスカッションなど、学生の関心を高めることを期待して行った活動が学生によっては苦痛に感じることもあったようだ。全体的な満足を得るのは難しいが、今後も同様の試みをしながら、回数や時間などについて、必要な改善を図りたい。

- ・グループディスカッションにおけるフリーライダーの発生を防ぎたい。具体的には事前課題を設定し、その提出を促すことにしたい。

- ・私の担当する日本語の授業は、現在は読解中心となっています。もう少し留学生どうして話せる授業にしたいと思っています。

- ・卒業論文が単位化されたので、学生のリサーチスキルを向上させる必要があると考えている。調査・研究のスキルに関するテキスト学習を取り入れたい。

- ・意欲や関心を持って取り組んでいる学生を高く評価する仕組みを考えたい。

- ・語学の授業で、学習者のモチベーションを高めるために、生活場面で応用できるような授業内容を心がける。

- ・事例紹介や最新のトピックなども取り入れて、学生の集中力を高め、理解促進を図る。

・講義では、なるべく実務の話をしたり、実務家を呼んだりして、理論と実践がどのようにつながっているのかを理解できるような授業にしたい。また、演習では、座学だけでなく、現場に足を運んで、学生時代にしかできない経験と学習をしてもらうように努めたい。

・出席の不正行為の確認のためにも、できるだけペーパーに手書きしたものを提出させるようにする。

・学習の方法や内容の調整について、学生ともう少し話し合ってみてもいいかもしれない。

・授業アンケートの回答で、講義科目において「学生の心が傷つく発言があった」というコメントがありました。どの発言なのか分からないので、こちらとしてもショックを受けています。同じ話をしていても、全く違う(思いもよらない)受け取り方をする学生もいることはコメントペーパーなどで分かっているので気をつけてはいるつもりですが、慎重に言葉を選んで話すようにしたいと思っています。

・レポートを課して成績評価をしたのだが、生成系 AI を利用したとみられる答案が少なからずあった。現時点では、利用する学生側のスキルが低いため、それほど苦勞せずにそのような答案を見つけられる。しかし、コピペ答案とは異なり、不正の明確な根拠は提示しにくい。秋学期もレポートで成績評価を行おうと思っていたが、論述式の期末試験に変更することにした。論述式の期末試験でも採点の負担があるのだが、生成系 AI を利用しているかどうかをチェックする負担よりも大きいわけでもない気がする。

・I need to consider how to encourage students to become more sociable and engaged in the learning process.

・Some students use their smartphones to play games, watch football matches, and movies. There are also students who come to class without textbooks, notebooks, or pens, relying only on their phones for entertainment. I have asked them to put away their phones, but they often take them out again and continue to distract themselves from the lesson. I would like to find ways to encourage these students to engage more in their studies and participate actively in the learning process.

6. 特別な配慮が必要な学生への対応

(1) 精神的・身体的な障がいをもつ者

・身体障がいのある学生がいた。校外実習の前に、あらかじめ現地へのアクセス方法について相談した。

・大学からの要請はありませんでしたが、途中(11回目)で本人から、精神疾患により授業への出席が困難である旨の連絡と、レポート課題による代替の要請がありました。本人の要請にしたがって残り4回分の課題を出しました。提出期限内に課題を提出し、単位を取得しました。

・ゼミで、身体障害や発達障害を持つ学生から合理的配慮の要望があった。授業中の飲食を認めたり、グループワークに代わる課題を出すなど、学生の要望をできる限りかなえるようにした。

・障がいのある学生のノートテイクの時間を意識しながら講義を進めた。

・授業中のPC利用を認めたり、グループワークへの参加は免除して課題の提出に代えるなど、学生の特性に応じた配慮をしました。いずれの学生も授業にはきちんと出席し、単位も取得したので、配慮や工夫は機能したと思います。

・小テストの締切を伸ばしたり、再挑戦の機会を与えたりする措置をとった。学生のプライバシーに配慮して、manabaに各人専用のコースを設けて、そのコースで小テストを受けさせたり、課題を提出させたりした。

・期末試験の際、特別な配慮として別室受験や追試を認めた例があった。

(2) 極端に消極的な学生

・出席回数の少ないゼミ生とは、頻繁に個別面談を行い、意思疎通を図っている。

・1年演習において、他の学生とほとんど関わろうとしない学生がいました。授業後、毎回ノートを提出させ、休んだり提出が間に合わなかったりした場合、授業外に提出してもらっていました。そのため、定期的にその学生と話すことができました。学期半ばに、最後まで休まず出席できるか不安だという話を聞いていましたが、結果的には春学期は無事最後まで出席できたので、ノート提出がうまく機能していたと思います。

・授業に来られない学生のために、毎回メールを送り課題を提出させる試みをしたが、後半は提出しなくなって音信不通になった。

(3) 留学生

・日本語能力が低い留学生 4 名(いずれもラグビー部)がいた。本人が英語ができる場合は英語でやり取りできるが、英語も日本語も不十分な場合はコミュニケーションが取れず、意欲が低いことも相まって十分な指導はできなかった。

・日本語の能力が低い留学生を、每期 1 名は預かっている。最も配慮しているのは振り返りシート返信であり、彼らは英語でコメントを書いてくる。つたない英語の能力ながら、こちらも英語でコメントを書くようにしている。また、筆記試験の際は、スマートフォンの翻訳機能を利用することを許している。彼らに合わせて英語でコメントを残すことや、翻訳機能を利用させることが有意義なのかどうかはわからないが、工夫としてはそれに尽きる。

・日本語能力が低い学生に対しては、グループ学習をし、面倒見の良い学生のそばに座らせることで、その学生も授業についていけるようにしました。最初の授業で、人に教えることは記憶の定着に役に立つという説明をしておいたので、特に不満はなかったと考えます。

・ゼミの後に自習会を実施し、留学生にも参加してもらい、そこで学習や進路等の相談を受けたり、討論会を実施したりしました。

・少し日本語能力の低い留学生がいました。コミュニケーションの問題から、授業を休む傾向があるように感じましたので、私からできるだけ声掛けをして、サポートをするようにしました。その結果、授業の出席度も改善されたように思います。

(4) 複合的なケース

・極端に消極的な学生(グループワークができない)、日本語能力の低い学生(話せない、意志を示す際に頷くなどするだけ)、反抗的な学生(指示に対して「イヤだ」「知らん」などと言う)がいたクラスがあった。特にグループワークにおいては支障をきたすので、ひとりでやりたいかどうかを確認し、本人がやりたいと言った場合はひとりで取り組ませた。

・特別なニーズがある学生には 連絡があった段階でこちらからメールをし、学習の進め方、課題の出し方などを指示した。

以上